



祝祭日には



を掲げよう

金山町町制施行101周年記念企画

かねやま未来図

町制施行100周年を迎えた新たな一步を踏み出した金山町。「金山の未来」をテーマに各地区からご寄稿いただきました。この節目の年に金山町の未来の姿を想像し、共に希望に満ちた地域社会を築いていきませんか？



▲下野明地区八幡神社

まとまりのある下野明地区

下野明地区 区長 梁瀬 進さん

年度初めの行事は、4月2日の山の神勧進です。以前は小中学生が一軒一軒の家をまわっていましたが、現在は少子化の影響により地区で協力して行っています。山の神勧進の翌日はひなまつり、繁忙期前にはかど焼、5月はフラワーロードの花植えや全町クリーン作戦、7月は金華山まつりと下野明交流会、8月には町内最古といわれる八幡様のまつりが続きます。14日の堂籠りでは、朝まで地区のことを語り合い、飲み明かしたことが懐かしく思い出されます。15日には境内で芝居や歌謡が行われ、約200名が集まり賑わいました。地区的皆さんにはこういった地区行事への参加をはじめ、花壇の水やりや歩道や墓地の草刈りなどを自主的に進めてください。これからも、このまとまりを大切にしながら、地区行事や町の行事に積極的に参加していきたいです。

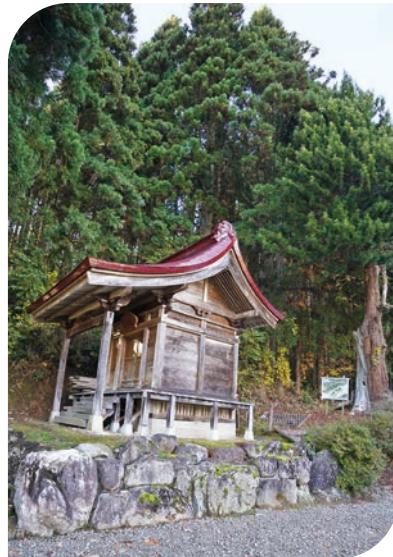
【地区】 43世/133名 ※令和7年10月末時点

「限界集落」ってなに？

安沢地区 区長 佐藤 一男さん

5年前になろうかと思いますが「集落創生」の中で寄稿し、安沢地区を「歴史」と「ロマン」がある地区と紹介した覚えがあります。その歴史とロマンは変わらないわけですが、年々変わっていくのが人の減少です。世帯数や隣組数は変わらないものの超高齢化が進み、若者の減少にともない子どもたちが極端に少ない現状になっています。公民館大会の折に「地域づくりシンポジウム」で地区内の単身世帯を調べている中で65歳を超えた高齢者が地区民の50%に近づこうとしている「限界集落」が頭をよぎりました。だからと言って「地区がなくなるわけではないだろう」と思いながらも、改めて地区内の組織のあり方、神社の祭礼、さまざまな行事、共同作業などの取組を見直し、皆で考え方を協力しながら地区を作り上げていかなければならぬと思ったところでした。

【地区】 56世帯/165名 ※令和7年10月末時点



▲安沢地区清龍宮

後編
集録

「狛友会の特集を組みたい」と思い行動に移したのが広報一年目の夏でした。様々な事情により特集が組めないまま2年が経ちましたが、全国的に鳥獣被害が増え狛友会への関心が高まった事により、今回の掲載が叶いました。「狩る・捕る」そして「共生」という矛盾する感じられる難しい課題に対し、私自身も多くの時間を費やしお悩みました。また取材を通じ、聞いた人の数だけ答えがあり、どれも間違いではないと感じました。

一つの答えを導きだすのではなく「問う事」「考え続ける事」そのものに意味がある——それが強く思っています。

金山町の人口は、4,586人 (10月末現在)

男性	2,268人	(−7)
女性	2,318人	(−8)
世帯数	1,677世帯	

▼10月の異動			
出生	1人	死亡	10人
転入	5人	転出	11人